

【研究協議題】 「社会に開かれた教育課程」の編成・実施
～「地域と共にある学校」づくりをとおして～

【解説】

周南市では、コミュニティ・スクールの取組により、学校と地域の横のつながりと、小学校と中学校という縦のつながりをつむぎあわせ、地域の人々と目標やビジョンを共有して、9年間の義務教育をとおして、地域と一体となった子供たちを育む「地域と共にある学校」づくりを行う。

このことで、学校運営の質の向上と特色ある教育の推進、中学校区全体で学校と地域が協働して子供たちを育てる連携教育の充実、学校・家庭・地域が一体となって子供たちを育てる教育的風土の生成が可能となるとした。

そこで、校長として、それぞれの地域性や新学習指導要領をふまえた学校と地域の横のつながりという空間的な「横のつながり」と、小学校と中学校という時間的な「縦のつながり」をつむぎあわせた教育課程（「社会に開かれた教育課程」）を編成・実施することで、次世代を担う資質・能力を身につけた生徒の育成を目指すとした。

【研究の視点】

- 各中学校の連携小学校数と学校規模、そして育成したい資質・能力を重点化（分類記号化）し、それぞれの成果と課題を視覚化していく。
- 重点化した資質・能力項目を学校評価項目に加え、評価、検討する。
- 同じ分類記号化した学校をグループ化することで、改善、評価を行う。

【研究協議題】 「主体的・対話的で深い学び」の実現

【解説】

山口市校長会では、前年度「生涯にわたり学習する基盤を培う『確かな学力』の定着と向上」というテーマに基づき、「主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善の取組」、「基礎的・基本的な知識、技能の定着を図る学習指導の取組」、「学びに向かう力を高める学習指導の取組」、「CSと連携した学習指導の取組」の四つの観点から、学習指導のあり方について研究を進めてきた。

成果としては、学校運営においてはベクトルの共有化・可視化、ゴールの明確化・焦点化が不可欠であり、校長による教職員への働きかけの重要性を改めて感得することができたことである。また、CSをとおした外部人材の活用、小中連携の緊密な構築など市内多くの中学校で「確かな学力」を高める工夫をしている実態が明らかとなった。

反面、課題の分析、共有など教職員の温度差の解消や数値化による成果の検証、人材活用等、課題として挙げられることも多く存在している。

本年度は、「『主体的・対話的で深い学び』の実現」という研究テーマから、校長のリーダーシップのもと、新学習指導要領のねらいに沿った次のような視点から研究を深めたいと考えている。

【研究の視点】

- 授業改善の視点から
- カリキュラム・マネジメントの視点から
- 組織マネジメントの視点から
- CS、地域協育ネットの視点から

【研究協議題】 よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実
～カリキュラム・マネジメントの視点から～

【解説】

平成31年度から実施される「特別の教科 道徳」（道徳科）に向けて、岩国地区校長会においても準備を進めてきた。まず、各学校で道徳教育の充実を図っていくためには、「学校のカリキュラム・マネジメント力」「学校の組織力」「校長のリーダーシップ」の3点が重要だと考えた。そこで、昨年度は、カリキュラム・マネジメントの視点で道徳教育推進をとらえ直し、校長の果たすべき役割や推進体制構築のための切り口、「考え、議論する道徳」の授業作りのあり方、道徳科の評価などについて、16名の校長が4部会に別れ、それぞれ研究を進めていった。また、責任者（6名）が、随時集まり、進捗状況を確認し次のステップに向けて企画・運営を行った。

今年度は、これまでの成果と課題を踏まえ、「A道徳の目標や計画に関する研究」「B指導体制等に関する研究」「C授業に関する研究」については、研究を継続しさらに深化させたい。「D評価に関する研究」については、今年度の重要課題として、特に力を入れ、D部会のメンバーにとどまらず全校長で取り組んでいきたいと考えている。

【研究の視点】

- 道徳教育充実のために、校長として何をどう進めていくか。
- 道徳科の評価をどう進めるか。
- カリキュラム・マネジメントの視点で取り組んだ成果と課題

【研究協議題】 体力の向上と生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育てる教育の充実

【解説】

本市校長会は、平成29年度研究協議題、「健やかな身体の育成と体力の向上を図る教育の充実」をテーマとして研究に取り組んできたが、30年度は研究協議題が上記へと変わった。それにともない、「子どもたちが生涯にわたり健康で豊かな生活が送れる」ための各学校の取組や校長としての役割についての視点を加えて研修を深めていくこととした。

中学生の時期は、親しい友人や仲間を積極的に求め、種々の活動を共に行う中で楽しさを十分経験する時期であることから、学校内外を通じて、興味・関心等に合った様々なスポーツを体験したり、見て楽しんだり、スポーツの意義や特性などに関する理解を一層深め、スポーツ習慣を形成することが期待できる。

学校においては、学校の教育活動全般において健康の増進、体力の向上を図ることはもとより、自ら進んで体育・スポーツに取り組み続けることができる力を育てることが重要である。また、いろいろな運動を経験することで、自分に適した運動が発見できることが「生きる力」の根幹をなす、豊かな人間性とたくましい体を育てていくことにつながると考える。

今年度は、昨年度の取組において、コミュニティ・スクールの良さを活かした人材活用の在り方や、地域協育ネットを活用した家庭や地域・関係機関との連携における校長としてのリーダーシップや役割について見えてきたことを活かして提案したい。

【研究の視点】

- 体育・スポーツ活動の取組
- 小・中連携の取組
- 家庭や地域・関係機関との連携

【研究協議題】 未来を切り拓くためのキャリア教育の視点に立った進路指導の充実
～小中連携カリキュラムの作成をとおして～

【解説】

急激に変化する現代社会において、新学習指導要領に示されているように、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付け、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路選択をすることが強く求められている。しかし、各校キャリア教育の現状には様々な課題があることが分かり、研究1年目は、小学校や地域との連携のあり方を見直すこと、日常の教育活動をキャリア教育の視点から見つめなおし教職員のキャリア教育に対する意識を変えることに重点を置いて取り組んだ。各校の教育活動を共有できたことや教職員の意識の向上などに一定の成果があった。

2年目の今年度は、これまでの研究の成果と課題をもとに、昨年度の研修体制を踏襲して研究を進めていくことにした。下関市の教育理念「夢への挑戦 生き抜く力 胸に誇りと志」及び各校の学校教育目標実現に向けて、校長会としては基礎的・汎用的能力のうち、「自他の尊重と協力」、「何事もやり抜く強さ」、「自主的・主体的な学びと行動」の育成を特に意識して、下記の視点により3つの部会に分かれて研究を深めたいと考えている。

【研究の視点】

- 小学校との連続性をもったキャリア教育の推進
- キャリア教育の充実を図る地域連携の取組
- 家庭とのつながりを大切にしたキャリア教育について

第6分科会 「生徒指導」 (担当 光地区 提案者 大和中学校長 弘実 邦雄)

【研究協議題】 自他の生命を尊重し自己有用感を育む生徒指導の充実

【解説】

学校・家庭・地域の教育環境・子どもや大人の意識や行動の変化にともない、生徒指導上の課題も多様化・複雑化している。このような現状の中で、生徒が将来に夢を抱き、社会的・経済的に自立していく力を身に付けていくためには、全ての教育活動を通して自己管理能力を育てていくことが求められる。そのためには、一人ひとりのよさを認め、生徒自身が有用感を育み、自ら伸ばせる開発的・予防的な指導・支援が大切である。

また、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、自他の生命を尊重する心の育成に取り組むとともに、活躍の場が与えられ他者に役立っていると感じられる居場所づくりや絆づくりが進めば生徒はいじめに向かうことはないと考える。

光市校長会では、光市がめざす「夢と希望を育む教育の推進」「豊かな体験活動の推進」を柱とする「豊かな心を育む教育」の取組の中で、命の偶然性・有限性・連続性を理解し、他者に必要とされ、よりよい社会の一員となる積極的な生き方を模索する態度を育てる生徒指導の取組の充実について研究を進めたい。

【研究の視点】

- だれもが存在感を感じられ、安心・安全に過ごせる居場所づくり
- 他者とのかかわりの中で、自主的・主体的な関わりを生む絆づくり
- 地域や家庭、関係機関とともに開発的・予防的な支援につながる連携づくり

【研究協議題】 多様化・複雑化した学校教育課題に対応できる教員の育成
～チーム学校によるキャリアステージに応じた人材育成～

【解説】

グローバル化や情報化、少子高齢化などの社会の急激な変化に伴い、多様化・複雑化する諸課題への対応が学校現場に迫られている。しかし、一方では大量退職、大量採用によるいびつな年齢構成から、学校教育力の維持すら難しい状況が予想される。

こうした中、学校は今後起こり得る諸課題への対応、解決に向けて、年齢構成の変化を踏まえた計画的、継続的な人材育成を強く推し進める必要がある。20代、30代の若手教員を即戦力として育成すること、数少ない中堅教員に計画的にリーダー経験を積ませ学校運営の担い手として育成すること、長年の教員生活で教職に係る知識・技能を高めてきたベテラン教員と課題の共有化を図ることなど、校長としてキャリアステージを意識し、キャリアをつなぐ積極的な関わりや働きかけが急務である。

今年度は、キャリアステージを意識した人材育成を、宇部市内の各中学校でどのように取り組んでいるかを整理・分析し、結果を踏まえて、宇部市中学校長会として、「キャリアをつなぐ」ための効果的な取組の在り方について研究を深めていきたい。

【研究の視点】

- 多様化・複雑化する学校教育課題と教職員に求められる資質・能力
- メンタリングを中心とした学校組織の中での人材育成
- 人材育成に向けた校内研修と校外研修の実際

【研究協議題】 地域との連携・協働による「チーム学校の創生」

～小中連携（一貫）教育・CSの取組を

学校課題解決のツールとして学校経営の軸に～

【解説】

子供たちが将来に向かってこれからの変化の激しい社会の中で生きていくには、時代の変化に対応して、様々な力を身に付けさせることが求められており、たゆまぬ教育水準の向上が必要である。そのためには教育課程の改善のみならず、それを実現する「チームとしての学校」という視点での学校の体制整備が不可欠である。またコミュニティ・スクールや様々な地域人材との連携・協働をとおして、保護者や地域の人々を巻き込み教育活動を充実させていくことも求められている。

そこで萩・阿武校長会では、学校課題解決のため小中連携（一貫）教育の推進、コミュニティ・スクールの活動を進め地域の特色を生かした“地域学習”に軸を置き地域連携・協働を図ってきた。地域に開かれたカリキュラムづくりをめざし教育課程を編成すること、地域の教育資源を小中連携（一貫）教育やコミュニティ・スクールの活動の中に有効に位置づけていくことを具体的な教育活動をとおして研究を進めている。今回の発表では小中連携（一貫）教育やコミュニティ・スクールの活動を推進していく中で行った校長の働きかけを具体的に示し、学校経営を進めていくうえでどのような成果があったのか、そして次年度に向けての課題は何であるかを提案していきたい。

【研究の視点】

- 小中、CS、関係機関とのつながりを機能させる取り組みと校長の働きかけ
- 地域の教育資源を活用するための校長の働きかけ
- 学校の課題解決に向けた具体的な実践と校長の働きかけ